

(様式第1号)

第10期 第5回 芦屋市環境づくり推進会議 会議録

日 時	平成30年5月18日(金) 10:00~12:00
場 所	芦屋市役所南館4階 会議室2
出席者	会 長 長井 彦一郎 副会長 池 内 清 委 員 浦川 朋子 委 員 田中 理生 委 員 佐藤 洋子 委 員 半田 孝 委 員 松原 洋子 委 員 森田 昭弘 欠席委員 大脇 巧己 欠席委員 船山 静夏 欠席委員 北尾 文孝 事務局 米村 昌純 事務局 岡本 祐子 事務局 横田 愛里
事務局	環境課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	1 名

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 第10期芦屋市環境づくり推進会議の活動(イベント)内容検討

①環境作文コンクールについて

②ポスター展について

(3)その他

・次回(第6回)日程

6月22日(金) 10時~正午

(4) 閉会

2 提出資料

会議次第

資料①第10期行動テーマについて

3 会議経過

- 事務局 定刻となりましたので始めさせていただきます。
本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。
ただいまから、第5回芦屋市環境づくり環境推進会議を開催させていただきます。
それでは長井会長、会議の進行をお願いいたします。
- 会長 はい、それではまず、議事に入ります前に、事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。
- 事務局 はい、委員11名中、本日8名の方がご出席でございます。半数以上の出席をいただいておりますので本会議は成立しております。
- 会長 はい、ありがとうございます。本日傍聴の方はいらっしゃいますか。
- 事務局 はい、傍聴希望の方が一人いらっしゃいますので、ご入場いただいてもよろしいでしょうか。
- 会長 はい、お願いします。

(傍聴希望者 入室)

- 会長 それでは、議事に入ります。次第に沿って第10期行動テーマについて事務局から説明をお願いいたします。
- 事務局 (資料確認)
では、10期の行動テーマにつきまして、前回決定しました内容の報告も踏まえて説明いたします。資料①をご覧ください。去年、第1回芦屋市環境活動報告会を実施しましたが、今期も継続して開催することになり、日程が平成31年2月23日の土曜日となりました。市民センターは、朝の9時から夕方5時まで予約をしております。イベントの名前は第2回芦屋市環境活動報告会で変わらないと思うのですが、サブタイトルの方を変えていこうかという話があったかと思っておりますので、そういった点と内容につきましては次回以降検討していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。
次に2の検討事項という項目をご覧ください。こちらが本日決めていただきたい内容ですが、一つ目に環境作文についてです。環境作文は6月に学校教育課へ依頼して7月には配布を予定しております。本日は作文のテーマ、アンケートをどうするか、去年と同じ内容で実施してよいかどうかと、応募資格に関しましても、去年は芦屋市に通学している小学生と芦

屋市に住んでいる小学生を対象にしておりましたが、それと変わらず実施してよいかという点、そして賞に関して決めていただきたいと思います。

昨年度のテーマに関しては、こちら①②③と記載させていただいております通りです。

次に、ポスター展の審査方法についてです。まず、テーマに関してポスター展は環境施設課と共同で実施することになりました。環境施設課が案内として小学校に配っているテーマがこちらに記載させていただいている通りですが、環境づくり推進会議として、何かテーマを設けたいということがありましたらこちらでも話し合ってくださいと思います。賞についても環境作文と同様に決めていただきたいです。

次に審査についてですが、作文は環境課に提出いただくので皆さんにお渡しすることができるのですが、ポスター展の応募作品の提出は、環境施設課になります。環境施設課では、教育委員会に在籍している元図工の先生に審査してもらっているということですが、推進会議ではどのように審査を行うのかということも決めていただけたらと思います。審査対象は、前回の会議で小学生部門、中学生部門、ポスター展に関してはどちらも対象としてよいのではないということになっていたと思いますので、こちらに記載させていただいております。

最後に3の次回以降、検討事項についてです。大きく2点あります。一つ目が報告会や環境作文、ポスター展とは別で10期として実施するイベントについてですが、前回の会議で大きくこの四つが挙がっていたと思いますのでこちらに記載させていただいております。

裏面をご覧くださいまして、環境活動報告会について、先ほど申し上げました通りサブタイトル等、中身をどうということをしていくかを次回以降話し合ってくださいと思いますのでよろしく願いいたします。

今日は、この2の検討事項、作文についてとポスター展の審査方法について決定していただきたいと思いますので、よろしく願います。以上です。

会 長 ありがとうございます。前回の決定事項は、芦屋市環境活動報告会を継続するという
ことで決まり、平成31年2月23日土曜日に開催しますということと一緒に決めさせて
いただいたと思います。

今日の、検討事項ですね。二番目の環境作文について、作文のテーマ、アンケート、募集、
応募資格、賞、昨年度のテーマ、このあたりを皆さんと一緒に決めていこうと思います。

作文コンクールについて今後のテーマですね。テーマは昨年と同じにするのか、また新た
に決めるのか。昨年は三つのテーマを設けていましたが、前回の会議でテーマを一つに絞る
という案もでておりましたが、この辺りを決めていこうと思いますので、よろしく願い
いたします。作文のテーマはどのようにしましょうか。

田中委員 昨年、アンケートも取られていたんですね。そのアンケートの結果から、次回どうす
べきであるとか課題などがあったのかということが一点と、三つのテーマの応募状況等が
知りたいと思います。

会 長 事務局の方で資料とかありますか。

事務局 アンケートの結果は、作文に関してというよりは、どのような行事に興味がありますかという質問でしたので、作文と直結するアンケートではなかったかなと思います。作文の応募状況から申し上げますと、18名の応募があり、全員に賞をお渡ししております。

半田委員 18名の方の内訳のようなものが分かりますか。18名だけなので作文の題名だけでも分かりませんか。

事務局 はい。資料を取ってきます。

森田部長 小学生に①③のテーマは難しくないですか。

田中委員 ②とかなら具体的な感じがしますが。

森田部長 同じテーマだとしても、少し表現を小学生向けに変えた方がいいかなということと、去年18名というのがかにも少ない寂しい数字なのですが、単に初めての試みで周知が浸透しなかったということもあるかもしれません。

たまたま対象が、下のポスター展が小学校・中学校となっていますので、作文も中学生まで広げたらある程度は書いてくるのではないかと思います。ただ、学校も生徒も忙しいのではないかと思います。ここに学校教育部長がいたらどうかと聞けるのですが。

浦川委員 もう少し具体的に何か…身近な環境といわれても、どんな環境か分かりやすく…と思います。

副会長 テーマですが、環境という言葉聞いても自然環境と生活環境と大きく分けて二種類あるんですね。世代を担っている人として子どもらが、その環境をどのようにとらえているのか、それを知りたいというのが目的なのかなと思います。何のために書いてもらうかではなく、子どもらがどのように考えているのかなと、それに親がちゃんと答えているのかということを考えるために書いてもらうのだと思います。そういう目的に合わせて、それを導き出すようなテーマである必要があると思います。

そうすると、身近な生活環境に関してと、自然環境に対してと、どのような表現をして分けていくのかということですが。自然環境でしたら、ひとつは芦屋市内でもお気に入りの自然、子どもらが今どこに興味を持っているのかというのはどうかなと思います。①と③は身近な環境に当たるとは思いますが、その辺の表現の仕方が…。③はそのままいいのかなと

思います。あるいは①の方ですと、身近な環境ということで、作文にもあったと思いますが、こんな環境の変化がある、こんなことが起こっているという経験を書いているものがあったので、身近な生活面で困った出来事とか目についた出来事というテーマはどうかと思います。

森田部長 ③は“芦屋を大切にするために”と書いてありますが、芦屋の“環境”を大切にするためにですかね。“環境”という言葉が入っていませんがいいのでしょうか。

副会長 それは、自然環境と生活環境の両方をひっくるめた感じで書かれているのだと思います。ごみを捨てる場合にはどうしたらいいのか、自然が壊されないようにするにはどうすればいいかと大きく二つに分かれると思います。今回はどのような表現で書くかですね。

会長 一つのテーマであっても子どもたちは悩みながら書くのかなと思います。これだけという的を絞る方が書きやすいですね。いろいろあると定まらないかもしれませんね。

半田委員 もうずいぶん昔の話で、30年くらい経っているかもしれませんが、今の環境省が環境庁の時代に、子どもたちに環境を身近に感じさせて自然を楽しんでもらおうという趣旨で小学生から高校生くらいを対象に、ポスターのコンクールをやったんです。タイトルは「私の散歩道」でした。画用紙に自分の散歩するコースを絵にして、私はこういうところを歩いています、ここに行けばこんなところがあります、これが見えますというようなことを、その図の中に書き入れて、それを仕上げで応募するというのをやっていました。それがいまだに続いているかどうか分かりませんが。

副会長 今の子どもたちが散歩に出ているかどうかは気になる場所ですけど。私たちのころは自然がまだ残っていましたので、虫や蝶々をあちこち探しながら帰ってきたんですけど、今でも自然はありますが、集団下校ではなかなかそうもいかないし、帰ってきてしまうとなかなか遊びに行くということがないようですね。近くで遊べる場所も限られていて、公園へ行くか家でゲームくらいしかないんですね。休みの日ですと、家族で出かけるにしてもテーマパーク等へ行ったり、遠くまで出かけて行って自然の中で楽しむということはありますけども、市内で総合運動公園等へ行けば結構遊べるんですけど、なかなか親がそういうところで子どもを遊ばせるという習慣がなければそれは難しいという現状ではないのでしょうか。実際にはやっているかもしれませんが…。

事務局 アンケートの集計が出来ましたので、ご報告してもよろしいですか。

18人のうち一番多いのが①の「身近な環境」が一番多くて10人、②の「夏休みに出会った自然」と③の「芦屋を大切にするために、私たちができること」が同じ4人でした。一番多かったのが、「身近な環境」ですね。

出された作品をざっと見ると、海が近いので海というものから始まって、海をきれいに
する、守るためには自分たちには何が出来るかという感じで書いてくださっている感じが
多いです。①と③セットで書かれている方もいらっしゃいました。

佐藤委員 テーマがあってその下に題名というのがあったじゃないですか。テーマは大きくても、
その中でそれぞれが感じる題名、例えばクリーン作戦に参加して気が付いたとか、それぞ
れの子どもたちが体験したこと、芦屋川が大変とかいろいろあるんですけど。あまりその
テーマを小さくしすぎると、その子たちがいろいろなところで感じる部分に題名をつける
ときに難しくなってしまうのではないかと思います。一人一人の意識が大事とか芦屋を日
本一の地にするためにとか、テーマに対して自分の感じる、書ける題名で入れているので、
テーマは大きくしてもいいのではないかと、私は思います。

会 長 そうですね。大きくしている方が、書きやすいかもしれません。

佐藤委員 出された作文の題名で“鳥の来る庭”とあるのですが、そのテーマは「毎日のくらしか
ら考える身近な環境」なんです。それぞれの子どもたちが、感じる環境に対する作文なの
で”小さいことも大事だよ”とか、テーマから自分たちが感じる題名を書いているので、
大きなテーマの方が書きやすいのではないのでしょうか。

森田委員 今報告のあった去年の応募状況から、①が10件で一番多いということですが、「毎日
のくらしから考える身近な環境」は、②にも③にも当てはまると思います。小学生にとっ
て環境問題というのがどれくらい難しいのかわかりませんが、やはり日常のくらしや自分
たちの体験からしか書けないですよ。①があればこれで十分のような気がします。なん
でも好きに書いてよってということじゃないですか。

佐藤委員 テーマがあってもみんな好きに書いている感じですよ。

会 長 うちの子が「毎日のくらしから考える身近な環境」というとたぶん親に、どんなことを
書いたらいいのか聞いてくると思います。親が、例えば…

浦川委員 それでここに例えばと書いてあるんですね。こんな感じで例えば…と書いておくと子ども
たちが分かりやすいのではないのでしょうか。

半田委員 去年の募集要項を見て、この三つのテーマで、来年応募しようと思っていたら、テーマが
変わってしまって参加しにくいとなるかもしれないので、全く同じことを並べるのも一つの
方法ではないのでしょうか。大きくまとめて①に絞る代わりに、考えるという文字でないと参
加できないのかなと縛りがきつくなるかなという気がします。

森田委員　テーマということを掲げないといけないのかということですね。“環境作文について募集します”として、説明に“皆さんの暮らしの中で、環境をどう考えているのか作文に書いてください。例えば…”などと書いておけばそのあたりはクリアにできそうな気がします。

副会長　前回、最終的に三つの大きなテーマ絞りましたが、本来ならばテーマごとに受賞者決める方が、いいと思うんです。昨年は、人数が少なかったのもそこまでいかなかったのですが、テーマごとに受賞者を決めるのがよいと思います。

森田委員　結果的に、このテーマで出しましたといっても中身は様々なので、そこをカテゴライズするのは大人の考え方で、子どもはそんなことはお構いなしに書いてくるのでそれでいいと思うんです。これが、中学生・高校生が対象であれば、また違うと思いますが。それであれば、逆にテーマを絞って分野別にするのなら果たして対象が小学生でいいのかなということになると思います。ただ一方で、子どもたちが環境についてどう考えているのかわかることが目的というのであれば、やり方はいくつかに分けて、それぞれ…というのもどうですかね。しかし実際、出てきたものを見ると子どもたちはそのあたりの境目はほとんど意識していないですよ。

浦川委員　本当に自分たちが感じたことを書いている感じです。このテーマというものはヒントというわけではありませんが、こういうことを書けばいいよと分かるような、夏休みにこんなことがあったので書いてみようかとか、毎日の生活でこんなことがあるから書いてみようかとかヒントにもなっているのかなという気もします。大人になるとテーマというのは一つで、大きなテーマについて、みんなで考えてもらうことになったりすると思いますが、色々なヒントをたくさん作ってみんなに自由に発想してもらうのも一つなのではないでしょうか。

会長　作文では“ごみが落ちていて汚いから拾おうと感じました、きれいになってよかったと思います”という作文ではなくて、“どうしていけば、ごみを落とさない、そのためには自分たちはどうしたらいいのか”というようにその先が知りたいです。子どもたちが、どう考えて、そうするためにはどうしたらよいと思っているのかということが聞きたいです。そういうことを作文に盛り込んでもらえるように書いてもらいたいです。

佐藤委員　今年も同じ形にしても、去年は色々なことが出ているのでこの形でもいいのかなと思います。自由にしてしまうと全く違うもので出てくるので、小学生に考えてもらいたいという趣旨から外れるようであれば、少しこのようなヒントを入れておいて、今年は二回目なのでもう少し応募が増えるような形で。

浦川委員　生活環境と自然環境とおっしゃっていましたが、ごみのような生活環境とこれからの地

球が危ないということも考えてもらいたいので、そういう項目も入れて欲しいです。お母さんがやっていたらこれはやってはいけないんだなと感じてやらないとか、そのようなのも例えばのところに加えたらいいいのではないのでしょうか。

会 長 環境は、学校で教えてもらう、家庭から学ぶとか、いろいろなところから刺激というか情報ももらい、その子その子によって全然環境が違い、感じ方も一人一人違うのかなと思うので、そのへんの気持ちを書いて欲しいと思います。ですから、あまりこうだというのを決めない方が書きやすいのではないかなと思います。前のテーマをもう一度同じでいって、なおかつ応募しやすいような形、もう少し書きやすいような例文とかを入れて書いていただく形でどうでしょうか。

副 会 長 例文を入れるというのは大人の感覚だと思います。子どもらは例文をみたからとしても近いようなものは書かないと思います。前回と同じでいいと思いますが、例えば、①「毎日のくらしから考える身近な環境」の(1)学校や地域の活動(2)自分が家で気を付けること(3)自然とのふれあい体験とありますが、三つを見れば(1)は③の「芦屋を大切にするために、私たちができること」に該当するかと思いますし、(2)も同じ③に入ると思います。(3)は②の「夏休みに出会った自然」に分類できるのかなと思います。そうすると、出会った自然、いわゆる自然環境のことと人間関係が中心になってくる生活環境の大きく二つに分けて欲しいなと思います。ただ、テーマを子どもたちはこの分野と書いているが、中身の方は自由にいろんなことにまたがって書いてくるので、無理矢理気にする必要はないと思います。ただ、テーマを分けておく方が、後の賞で名目が何通りかできてくるので評価がつけやすくなるのであった方がいいと思います。三つなくても二つでもいいかなと思います。

会 長 例えばでなくて、何でもいいですよという感覚で、説明書きというか…

浦川委員 それは、あった方がわかりやすいと思います。

副 会 長 目的のある言葉が入っていると、その言葉に、関連して書いてきてくれるかなと思います。

会 長 今までと同じような感じで、自分たちがどうしたらいいのかはアンケートで答えていただいて…

副 会 長 アンケートは現状を調べるという目的で、将来どうやりたいかというのは別の次元ではないかなと思います。今自分の家ではこんな風な取り組みをしているよ、こんな風に考えてやっているよという現状を認識するのがアンケートではないかなと思います。

松原委員 アンケートはたくさん集まったのですか。

事務局 18枚です。アンケートに答えてくださっている内容を見ると、皆さん、自分の町は綺麗で環境はいいなと感じてくださっているようです。空気は綺麗ですかとか町は静かですかという質問には、「はい」と答えてくださっている方がほとんどで、だいたい10人以上くらいあります。ですが、どんな活動に参加したいかという質問では、ごみ拾いが一番多くて、次が川や公園の掃除、やはり身近な物に対して環境というものを感じているようです。また、どのような行事があれば参加しますかという質問では、川や山、海での生き物の観察会等ですね。どうしても身近な環境をテーマにした作文が多くなるのはそういうことかなと思います。

会長 発見が少ないということですかね。学校が終わっても塾に行ったりとか、家の中で遊んだりして、あまり公園とか行かないのですかね。休みの日も郊外で羽を伸ばすとか、海とかに行く機会は少ないように思います。その中で、このような作文を書いてねというと、あまり自然に触れていない、経験が少ないのでなかなか難しく書きづらくなるような気がします。

佐藤委員 3番目に書いてありますが、次回の検討事項で、自然観察コースの設定とか芦屋市内での活動報告情報を発信するとか実験観察会とか書いてありますが、出かけるというのが少ないし、親御さんも虫とか嫌いという方もいるかもしれないので、このチームで何か出かけて行っているいろんなことを体験してもらい、この間教えてもらったから作文でも書いてみようかというような動機づけにつながるようなことを夏休みに一度やって、来てもらった人に作文に書いてねと振るとか、そういう手もあるのかなと思います。たぶん、小学校で案内を配ってもらっても、プリントをもらって帰ってくるだけで、興味のある子しか書かないと思うので、何か仕掛けを私たちがやってみて、そのあとで作文を書いてねと声掛けをするというのでもいいのかなと思います。

会長 夏休み前に募集をかけて、夏休みの間に作文があるから何かしないといけないとか、自ら外に出ないといけない、参加しないといけない、体験しないといけないとか思ってもらえるように。

佐藤委員 結構楽しいと思いますが、なかなかその機会がないと思うんですよ。何か会が企画をして体験したことを、今度作文募集するから書いてねというを書いてくれると思うんです。

会長 子どもが、作文を書かないといけないからどこかに連れて行ってよと親に言ったりするのではないのでしょうか。親も書く気があるのならどこかに連れて行ってあげようかと思われるでしょう。そうすると親御さんもこういう環境について考える機会も出てくることに

つながると思います。

佐藤委員 書かない子もいるかもしれないけど、経験するというのもとても大事なかなと思います。私自身も知らないですから、知ること大事だと思います。外に出て作文を書くきっかけを作りたいということですね。

副会長 昔は親御さんが子どもを連れて山へ行くとか、潮干狩りへ行くとか、どこかへ遊びに行くとか親が中心だったと思うのですが、今の親御さん達は子どもをどこに連れて行ったらいいのかわからないという場合が多いんじゃないかなと思います。こちらの方で何か自然を紹介するきっかけとなるイベントを作るのはいいかもしれません。そのためには、次回になりますけど、自然観測でこんなものが見れますとか決めて宣伝しておけば、それを見て親が自分たちで連れて行ってみようかなと、あるいは、観察会があればそれに参加していけば次回から自分たちでいってみようかなとかつながっていくのではないのでしょうか。勝手に思いこんでいるだけかもしれませんが、今の親御さんは自然と触れ合う機会が十分できていないのではないかと思います。

浦川委員 テーマのことで、第三次の基本目標で「地域の環境を考える、地球の環境を考える」で例が出ていますが、とても分かり易く、書きやすいしわかりやすいと思うので、もう少し子どもの言葉にして、環境課の推進されることになっていいのではないかと思います。

会長 どちらかという跟前回のテーマというのを取り入れて全く同じにするのか、二つに絞るのか。

浦川委員 これは前のも入っているし、綺麗に整理されているので、こんなことも書いていいのかというヒントもありますし、地球の環境、地域の環境…大きな意味では芦屋の環境について。書きやすいような気がします、偏らないし…

会長 半田先生がおっしゃったように、前回書いた子も調べてくるのを踏まえて、どうなのかなと…

浦川委員 違うことではなく同じことなんですけど、うまく分類されてわかりやすいかなと思います。地域の環境を考えるはそのままでもいいと思います。地球の環境を考えるもそのままでもいいと思います。生き物とか自然とのふれあい体験とか、芦屋らしい景観とわかりやすいかと。

副会長 前年そのままでしたらどうですか。子どもらは考えて書いてくるので三つ挙げておけば基本的にこの部門の賞、この部門の賞、この部門の賞と子どもらに賞を振るようにすればいいのではないのでしょうか。

浦川委員 地球の環境という言葉をごまかに入れて欲しいです。環境というごまかになってしまふので、地球が守られてこそその芦屋の環境なので、どこかに地球の環境という言葉をごまかに入れて欲しいです。

副会長 さっきのように①は②と③に含まれてしまっている、細かく分けなくても、大きく三つにしておいて、この部門の賞、この部門の賞、この部門の賞と子どもらに受賞させてあげれば良いと思います。中身については、こんな風なことを書いて欲しいということ、例えばという文言をあげて少し書いておくというのはどうでしょうか。

会長 ③に「地球・芦屋の環境を大切にするために」と入れるとだいたいわかると思います。それでは、今年度の環境作文テーマは、基本前年と同じ「地球の環境」ということも含め、こういう観点でも書けますということ明記しておくということによろしいでしょうか。次に、アンケートについて。昨年度と比較して今年度は、同様にするのか新たに加えるのか、皆さんの意見を聞いてみたいと思います。

副会長 アンケートは、毎回毎回変えると傾向がつかめなくなるんです。基本同じアンケートでいって、前どんなふうに変わっているか、その中でどうしてもという項目があれば削るのが良いと思います。

田中委員 今は傾向とか比較はされているんですか。まだ1回だけでしたっけ。前回のものを活用等は出してはいない感じですよ。

副会長 問6の中で、どのような行事に参加しますかというところで、いろんな意見が出てくれば、それを元にして考えたらいいのではないのでしょうか。いろいろな意見も出てくると思います。

田中委員 目的から逆算して聞いていったらいいと思うので。

会長 どうしていきいたいとか、“どう思う”ではなく“どうしたらいいと思いますか”というのが欲しいかなと思います。作文の中にそのようなことが出ていけばいいのですが、小学生の作文だと“こう思った”“で終わってしまうと思うんです。このアンケートで、“私たちはどうすればいいのか”というのが欲しいと思います。前回の結果というものがあれば、子どもたちにもアンケート結果を知らせるといったのも一つかなと思います。

副会長 アンケートのまとめと講評みたいなのは作成していないのですか。

佐藤委員　まとめているものはありますよね。何件かとか何人とか数字にしてあるものは。そのことに対して講評みたいなのを入れたのを一枚にしたらどうですか。

会　長　子どもたちの意識も親御さんの意識も毎年やっていけば、変わっていったらというの
が分かると思うんですね。

副会長　こんなことをやって欲しいとかこんなものだったらできるよとか、アンケートを見た人
が考えるものだと思います。強制してこう考えてください、このようなことが出来ますよ
というのは言わない方がいいと思います。講評でもアンケートを集めて、その中でこのよう
な意見がありますので、推進会議でも重点的に進めていきます、というような感じででき
ると思います。書いた人は、皆さんがどう考えているのかなということを気にされている
と思うので、広く講評をすることは必要だと思います。

事務局　今回の環境特集号は、昨年やった活動のお知らせですが、例えば、次回の環境特集号で
は引き続いてやって、アンケートをとった結果ではこういう傾向でしたという形での講評
はできるかなと思います。

会　長　アンケート結果、集計結果は毎年6月1日環境特集号でご覧くださいと書いておけば皆
さん見てくれるかなと思います。

では、アンケートも前回と同じ形で行うようにいたします。

次は、応募資格ですね。

事務局　前は、芦屋市内に在住する小学生と芦屋市内の学校に通学する小学生でした。

会　長　小学生は1年生から6年生。今回は、同じ小学生プラス中学生とするのか、あるいは中
学生と小学生の高学年とするのか。皆さんの意見をお聞きしたいのですがいかがですか。

森田委員　中学生も入れたらと言ったのは、単純に去年の18人が少ないからという発想からです
が、中学生を入れるとなると小学生と中学生を別に分けてそれぞれに審査して、賞をあげ
ないといけないと思います。小学校1～6年生までで18人で、果たして中学校の数が少
ない、生徒の人数も少ない中で果たして何人出てくるか心配なので、もう一度同じ条件で。

浦川委員　去年の18人の内訳はどうだったのですか、低学年と高学年の割合は。

事務局　低学年の方が多かったです。1～4年生くらいまでが多くて5、6年生は少なかったで
す。前は、ポスターは中学生まで入れたらどうかという話で、作文は小学生でいいので
はないかという話になっていたかと思います。

会 長 表彰式を一緒に行うのかどうかというので。

事務局 表彰式も環境づくり推進会議が表彰したポスターに関しては2月のイベントでしたらどうかという話だったと思います。

会 長 ポスターは別で表彰で行うのですか。

事務局 一緒の日に、ポスターの受賞の部、作文の受賞の部を同じ2月の報告会で推進会議が選んだものを行うというものです。

会 長 それであれば中学校を外してもいいのかなと思います。推進会議で、小学生の作文というのと、他の分野の中学生部門での表彰と分かれているので、中学生を一緒にする必要はないかと思いますが、そのあたりは皆さんいかがでしょうか。
では、今まで通り1～6年生ということで。

浦川委員 ポスターが新たに入ってきたので、そこは中学生も一緒に。あくまでの環境推進会議が選んだポスターを表彰するというので、以前からのものは以前からのところで選ばれるんですよね。

事務局 そうです。今やっているものは環境処理センターで表彰し、それとは別枠で環境づくり推進会議が選んだものについてだけ2月に表彰することになります。

会 長 それでは、前回と同じ小学生対象で。前は非常に少なかったのが全体で行いましたが、応募人数によって部門分けをするのかしないのか。またふたを開けてみないとわからないということですかね。集まり次第で部門別とするのか、全体をひっくるめてするのかは、これから決めるということですね。

とにかく、関心を持っていただくよう、推進会議としては広げていかないといけないという部分で、今回絵の方と一緒にやることによって広がりが少しできたのではないかと考えていますので、これをどんどん毎年続けていって、次はまた別のところで何か加わって、どんどん大きいものになっていき、環境についての取り組みを、みなさん市民と一緒に考えていくというしくみがいいかなと思います。ということで前回と同様ということになりましたので、よろしく願いいたします。

次は賞に関してなんですが、賞は部門に応じてですかね。

森田委員 ただ、募集の時に表彰などは言っておかないといけないですよね。部門別にやるかどうかは別として、去年はどのような出し方になっていましたか…去年は“多数の賞、記念品を予定しています。”となっています。要するにその程度でいいと思います。何人とか必

要はありません。

会 長 予想がつかないので…去年はふたを開けると少なかったのですが、そこで落とすというのも可哀そうと思ったし、せっかく書いてくださったし、素晴らしい作文だったのでぜひ賞をあげたいということで、応募された方全員に表彰させていただきました。

浦川委員 記念品は何だったのですか。

事務局 図書カードです。

田中委員 私は、広告会社で働いているのですが、企業さんがキャンペーンをやる時には、商品内容と告知次第で、応募数は全然変わるんですね。商品内容を数までは難しくても先ほどの図書カードとか去年は全員にあげているんですよ。書けることは具体的に書いた方が、間違いなくいいと思います。出来ればその商品も具体的に書いておけば。やはり動機というのはとても大事だと思うので。

会 長 行政として限界があるのであれば、何か協賛してもらおうとか。

田中委員 芦屋にはいろんなところがあると思うのでそういうことが出来れば、手間はかかる話かもしれませんが。

事務局 図書カードの分は予算をとっています。

田中委員 去年は他に実際には何をあげたんですか。

事務局 作文では、去年は表彰状と図書カードを、最優秀賞、優秀賞、佳作があったのですが、その賞に応じて金額を分けて渡しました。

田中委員 ちなみに最優秀賞ではいくらくらいですか。

事務局 2000円、1000円、500円でした。

田中委員 協賛を募ったりすることは無理ですか。

会 長 無理ということはありません。ただ、そんな動きをしなっただけなので全然できます。

浦川委員 記念品のところに図書カードと書いてもいいですか。表彰のところに何か書いたらいい

かなと思います。

田中委員　　そういうことは、数を増やそうと思ったらすごく大事な部分だと思います。

事務局　　とりあえず今、賞については、応募状況次第でということでしょうか。

森田委員　　入賞者には表彰と図書カード進呈くらいで、人数は書かないということですね。

会　　長　　それ以上具体的には、図書カードの金額くらいですね。

事務局　　いくらというのは賞の数によるので…

会　　長　　最優秀賞はどれくらいなのか…とか。

浦川委員　　それは図書カードだけで、そのほかは書かなくてもいいと思います。

事務局　　配るのは6月なので、もし、ここに明記するのであれば、今日ある程度は決めてしまわないといけないと思います。ただ、多数の賞と記念品というところに昨年やった実績を載せることはできると思います。最優秀賞は図書カードいくら、優秀賞、佳作はいくらを予定という書き方であれば書けるとは思います。3部門それぞれ3つ設けますというのは書きにくいかなと思います。今ここで決めてしまうのであれば書けますが、出てきた感じで決めるのであればそういう書き方にはなりません。

森田委員　　詳細が応募状況によるので、予定という書き方で十分だと思います。

会　　長　　協賛される方を一応募って、企業が何か提供しますということもあるかもしれませんね。

浦川委員　　それであれば、初めの時に書いておかないとだめですよ。

事務局　　それは、減る方向ではないので大丈夫だと思います。もし、可能で続くようであれば来年にはそれを書いたらいいと思います。今年はとりあえず去年やった実績を書かせていただいて、予定と書くということによろしいですか。

会　　長　　作文についてはそれで大丈夫ですね。次はポスター展ですね。

事務局　　作文は学教教育課に依頼して7月に配布予定ですが、ポスター展は環境施設課がされているのに推進会議として入れさせていただくものになるので、どのように書いたり、ひと

つのテーマとして追加させるのか、文言を環境問題というところに入りこませるのかどうでしょうか。

会 長 応募の時に、作文コンクールなのか環境のポスター展なのか、その題目も変わってくるということになりますね。

事務局 ポスター展は環境施設課が案内を出してくれているので、推進会議から出すということにはしません。表彰も同じではなく、環境推進会議での表彰となります。表彰も開催も同じです。施設課がやっているなので、集め方が違うということで、別々に行い最後だけ一緒ということですね。施設課が出している応募テーマが、資料①に記載させていただいていて、これをもとに小学生、中学生が環境施設課に絵をかいて提出というかたちになります。

森田委員 テーマは環境問題の全体をカバーしているので、これにテーマを追加する必要はないと思います。実際出てくる絵も 600~700 くらい毎年出てくるのですが、地球温暖化、地球環境の問題、身近な自然環境、ごみの問題、マナー・ポイ捨ての問題。全部出てきます。その中から推進会議としての視点で選べばいいと思います。環境施設課に応募作品は集まって、環境施設課では、教育委員会の元凶工の先生に来てもらい、その場で審査してもらっています。

このメンバーで施設課に行って、ゴミ処理場の見学もいかがでしょうか。

会 長 審査はいつくらいの時期ですか。

事務局 応募期限が9月15日まで、審査は10月中ごろです。環境施設課の審査が10月中ごろです。

会 長 だいたい同じくらいの時期ですね。
その時期に、施設見学をかねて審査をするということですね。
応募は今まで通りの応募でよろしいでしょうか。

事務局 そうですね。

会 長 ここで表彰は、平成31年2月に開催というのを環境施設課と一緒にやるかどうか書くかどうかですね。同時開催とか書いた方がいいですか。

(森田委員 退席)

事務局 環境施設課が配っている案内に書くかどうかですか、作文のところポスター展のこと

を書くかどうかですか。

会 長 ポスター展と同時表彰式を開催しますとかですね。

事務局 今は学校を通じて入選者には別途連絡をしています。そこで、いつ表彰しますということを入選者に通知するような形にするのか、別に載せるのかのどちらかになると思います。

佐藤委員 環境作文コンクールの案内ですよ。

事務局 ポスターはまた別枠になると思いますが。これは、2月に発表しますと書いてあるのでいいと思いますが、ポスターは別の方法になると思うので、作文のものにポスターことまでを別に書かなくていいと思います。ポスターの募集についての案内を入れるとしたら環境施設課のものになると思います。今そのような話になっています。

佐藤委員 推進会議の表彰をしますということ、そちらの応募要項に入れてもらうようになっているのですか。

事務局 はい。環境づくり推進会議の入賞とかという枠を設けてもらうようにしていますので、募集期間とかポスターとしては一枚で、賞として名前が入った賞を一枠で設けてもらうようにお願いはしています。

佐藤委員 それであれば、それぞれでいいのではないかと思います。

会 長 賞をもらいに行ったら違うところのものだったとかならないですかね。

佐藤委員 ポスター展の応募要項に載っているから、そのようには思わないのではないのでしょうか。

事務局 ポスターの用紙も小学校に配布しますので、どちらも見られるということです。
ポスターの賞を環境施設課は、小学生部門で特選と入選とに分けており、中学生も特選と入選があり、それぞれに賞状と賞品を設けておられます。書き方としては、小学生部門に特選、入選の他に環境推進会議入選賞というもので賞状及び商品という形にしなければいけないのですが、その賞のお名前を何にするか今ここで決めさせていただきたいと思います。

会 長 環境施設課は「環境施設賞」ではないんですよ。

事務局 はい。特選、入選というものです。

浦川委員 そのままで「環境づくり推進会議賞」ではどうでしょう。そんな会議があることを知ってもらうためにも、そのままの名前がいいのではないかと思います。長いけれどこのままの名前でどうでしょうか。

事務局 「環境づくり推進会議賞」ですね。何名くらいでしょうか。
ちなみに小学生の特選は2名、入選は16名選ばれています。中学生部門は特選2名、入選は6名になっています。特選の方には3,000円、入選の方は1,000円の図書券を記念品として渡しています。そういったことを踏まえて「環境づくり推進会議賞」の商品の値段と人数を決めていただけたらと思います。最大で3,000円かなと思います。

浦川委員 作文が2,000円だったんですね。

半田委員 2,000円で若干名にしたらどうでしょうか。

事務局 それは小学生と中学生とそれぞれということよろしいですか。
審査については、皆さんで見学会に行かれてされるということですね。

松原委員 素人たちだけでいいんですか、美術の先生にも来ていただかなくても…

事務局 図工の先生は図工の先生で別途行って選ばれるので、重複しないようにそれ以外という形になると思いますが。

会長 違う観点から見の方がいいと思います。

事務局 ただ、先ほども話がありましたように700枚程度あるので、一通り見ていくだけでも結構な時間になるかと思います。

会長 それでは「環境づくり推進会議賞」ということでいきます。審査は10月中ごろということをお願いします。

他は、全体を通してご意見はありませんか。

だいたい今日はその辺りまで決めさせていただきましたが、次回検討事項ですけれども、報告会では環境作文とは別のイベントについて。

浦川委員 先ほど、佐藤さんがおっしゃったみたいに作文につながるような何か行事を早めにするのであれば、次に6月に集まった時に…

会長 夏休みくらいに観察とか体験学習とか何か書きやすいような…。

浦川委員 何かありませんか。

佐藤委員 環境づくり推進チームみたいな形で何かするのもいいのではないかと思います。子供たちを集めて。

会 長 それをするのか、芦屋市内の活動情報を発信するのか、それとも半田先生が行っている星空観測会のようなものを交えて、環境作文コンクールにつながるように持っていく方法もあります。

夏休みに入る前に何か考えておかないと休みに入ってしまったら遅いので、次の推進会議でそのあたりを考えて進めたいと思います。

次回ですが、6月ですね。

事務局 18日から22日の週でメールで日程調整をさせていただこうと思っています。今、ご都合の良い日がお分かりですか。

会 長 6月22日の都合がいい方が多いので、いかがですか。

事務局 部長と課長が無理ですが、次の週になると夏休みに入ってしまうので6月22日の午前でお願いします。

会 長 では、次回6月22日に会議を行いますのでよろしくお願いします。

これもちまして、第5回環境づくり推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。

以 上